## 第一幕第一場

#03 「奥様は魔女」のテーマ（ピアノソロ）

男優２、登場。

**男優２**　その人の名は、シラノ。

男優１登場、後ろ向きに立つ。

**男優２**　ごく普通のシラノは、ごく普通の恋をし、ごく普通に失恋しました。でも、ただひとつちがっていたのは――シラノは、ちょっとだけ、鼻が大きかったのです。

男優１、ふりむくと、とてつもなく大きな鼻を付けている。

**男優１＝シラノ・ド・ベルジュラック**　（男優２に）どう？
**男優２**　ベタだねえ。
**シラノ**　（男優２にやや小ぶりの鼻を渡す）はい。
**男優２**　え、おれも？
**シラノ**　付けないとフランス人に見えないよ。
**男優２**　付けても見えないでしょ……（と言いつつ鼻を装着する）
**シラノ**　やあ、これはこれは、わが親友のル・ブレ君！　きみはぼくの幼なじみで、パリの親衛隊にもいっしょに入って、生涯苦楽を共にするんだよな。
**男優２＝ル・ブレ**　説明的な台詞だなあ。
**シラノ**　よかったじゃない、人間の役で。
**ル・ブレ**　うん。
**シラノ**　（ル・ブレの肩をたたいて）ま、座長のことだから油断はできないけどな、とりあえず今はおれたち人間だしフランス人だし、しかも22歳だから。
**ル・ブレ**　そうなの？！
**シラノ**　ちょっとこれ持ってて。（と自分の鼻をル・ブレに渡し）はっ！（突然、気合いとともに宙に剣をふるう。が、どう見ても日本刀の型である）
**ル・ブレ**　それ、刀がちがうんじゃない？
**シラノ**　途中で話しかけないでっ。（型を終え、一礼して）お粗末。
**ル・ブレ**　（鼻を返す）はい。
**シラノ**　ありがと。（と受けとり、また突然ポーズを取る）ああ、聞かないでくれ！　このおれに恋ができるかなどと。
**ル・ブレ**　聞いてないよ？
**シラノ**　考えまいと思うそばから、あの命取りの美しさ。
**ル・ブレ**　あ、これ、始まったんだ。
**シラノ**　どこへ行ってもこの鼻は、おれさまより15分前にご到着！
そのおれが、誰に恋をした？　よりにもよって美女の中の美女、
たぐいなく艶［あで］やかな、この上なく清らかな……

**ル・ブレ**　わかった！　ピンポン！

早押しクイズのあれ。

**シラノ**　早っ？！

**ル・ブレ**　だって原作どおり全部やると長いから。

**シラノ**　ああ、まあね。

**ル・ブレ**　わかった！　明々白々だ。きみの従妹マドレーヌ・ロバン、

**シラノ**　またの名を、

**シラノ＆ル・ブレ**　ロクサーヌ！！

女優１＝ロクサーヌ、鼻を持って華やかに登場、音楽に乗って踊る。
シラノとル・ブレ、拍手。
女優２（男装、やはり鼻を持つ）もいつのまにか出てきて、ひじょうに自然な感じでいっしょに拍手している。

#04 シャブリエ「スペイン」のテーマ（ピアノソロ）

**ロクサーヌ**　（しとやかに、格調高く）シラノさま。わたくし、ないしょのお話があってまいりましたの。

**シラノ**　ないしょのお話にしては、派手なご登場でしたな。

**ル・ブレ**　ねえ。（女優２もいっしょにうなずく）

**ロクサーヌ**　（出鼻をくじかれて）んもうー。やだー。（可愛く地団太を踏む）

**シラノ**　だって主役のおれより目立ってるって、どゆこと？

**ル・ブレ**　たしかに。（女優２もいっしょにうなずく）

**ロクサーヌ**　しょうがないでしょ、台本に書いてあったんだもん。

**シラノ**　（ル・ブレに）座長の趣味だな。

**ル・ブレ**　だな。（女優２もいっしょにうなずく）

**シラノ**　（女優２に）で、誰だっけ。

**女優２**　（にこにこと）ラグノーです。

**シラノ**　おお！　これはこれは、わたくしシラノをこよなく慕うカフェ・レストランの店主、ラグノー君！　三度の飯より芝居が好きで、おかげでもうすぐ破産して、ロクサーヌお嬢さまの付き人になるんだけど、いまのところ、（まわりをぐるっと示して）ここ、きみのお店の中なんだよな。

**ル・ブレ＆ロクサーヌ**　そうなの？！

**ル・ブレ**　カフェ・レストランってことは、食い物出てくるの？

**女優２＝ラグノー**　（にこにこと）はい。ただいま厨房ではシチューがぐつぐつ、テーブルの上にはシュークリームにタルトにマカロン。

**ル・ブレ**　ひゅー！

**ロクサーヌ**　シュークリーム！　シュークリームどこ？

**ラグノー**　いえ、それは……

**シラノ**　あるつもり。あるつもり。

**ロクサーヌ**　ああ……。エア（架空）なのね。

**ラグノー**　すみません。

**シラノ**　予算の関係だな。

**ル・ブレ**　だな。

**ラグノー**　で、ですね、（空中に線を引いて）ここまでが、個室のお部屋です。で、ここから廊下で、いまドアを閉めますから、外には聞こえません。（シラノとロクサーヌを線の向こう側に立たせ、ル・ブレを自分の側に連れてきて）はい、ドアがっちゃん。ささ、ないしょのお話のつづきを、そちらで、どうぞ。

**シラノ＆ロクサーヌ**　え？

**ラグノー**　わたしたちはこちらでお二人を応援してますから。（ル・ブレに）ね。

**ル・ブレ**　あ、うん。

**ラグノー**　（にこにこと）どうぞ！

ラグノーとル・ブレ、「こちら」側で、かわいく応援している。
しかし、それが舞台の中央なので、

「がんばれ、がんばれ」みたいな。

**シラノ＆ロクサーヌ**　寄ってて。寄ってて。（とル・ブレとラグノーを押していく）

**ル・ブレ＆ラグノー**　えー！

**シラノ**　いない人。いない人。（とル・ブレとラグノーを後ろ向きにして立たせる）

**ル・ブレ＆ラグノー**　えー！

それでも、ル・ブレとラグノー、こっそり顔をこっちに向けて、以下の会話を聞いている。

**ロクサーヌ**　（気を取り直して、せきばらいなどして）
シラノさま。わたくし、ないしょのお話があってまいりましたの。
それもあなたを、お兄さまと慕ってのこと。
昔、よくごいっしょに遊びましたわね――湖のほとりの、あのお庭で！

**シラノ**　そうでした、毎年夏には、ベルジュラックへおいでになった。

**ロクサーヌ**　水辺の葦［あし］が、あなたの剣になりました。

**シラノ**　タンポポの花が、あなたのお人形の金髪で。

**ロクサーヌ**　あの頃のおままごと……

**シラノ**　イチゴのように甘酸っぱい！

**ロクサーヌ**　あなたはいっつも、おイタをして、お手々をすりむいて……（シラノの手をとり、驚く）まあ、どう遊ばしましたの、このおケガ？

**シラノ**　いや、何、たいしたことではありません。

**ロクサーヌ**　いけない坊や。（手当てをする）

**シラノ**　本当にたいしたことではないんです。昨夜、友人が悪い連中にからまれましてね、その助太刀を。

**ロクサーヌ**　（うっとりと、上の空で）まあ、そう。

**シラノ**　（得意げに）いやね、わたし一人でちょいと百人ばかり、斬っては払い斬っては払い、これがかの有名なネールの門の決闘――聞いてませんね。

**ロクサーヌ**　シラノさま。わたくし――さるお方を愛しておりますの。

**シラノ**　はあ。
**ロクサーヌ**　何も言わずに遠くから、ずーっとわたくしを見つめていてくださる……
**シラノ**　はあ……！（キター！）
**ロクサーヌ**　才知と天分に輝くお方！
**シラノ**　（照れて）ははは。
**ロクサーヌ**　誇り高く、気高く、お若く、勇ましく……
**シラノ**　ははははは。
**ロクサーヌ**　お美しい！
**シラノ**　――は？

シラノ、自分の鼻をつくづく見る。

**ロクサーヌ**　わたくしを見つめるキラキラの、お目々はまるで、お星さま。
恋い焦がれておりますの、わたくしも、あの方にもう、ずうーっと――
初めてお会いした、先週の金曜日から！
**シラノ**　早っ？！
**ロクサーヌ**　パリに知り合いのない孤独なあの方を、守ってあげてくださいませね、
大好きなお兄さま。
**シラノ**　誰です、そいつは。
**ロクサーヌ**　トゥーレーヌの男爵、クリスチャン・ド・ヌーヴィレットさまですわ！

座長＝クリスチャン、やはり鼻を持って華やかに登場。
ちょっと踊って、決めポーズ。
シラノをのぞく三人（ロクサーヌ、ル・ブレ、ラグノー）、拍手。

#04 「スペイン」（ピアノソロ）

**シラノ**　だからなんでみんな主役のおれより出が派手なの？
**ル・ブレ**　まあまあまあ。
**シラノ**　（ロクサーヌに）それにこの場面、ロクサーヌは、いちゃだめなの。
**ロクサーヌ**　（無邪気に）そうなの？
**シラノ**　男の子だけのひみつなの。
**ロクサーヌ**　ふーん。
**シラノ**　だから、ごめんね。いない人。いない人。（シラノとル・ブレとラグノー、ロクサーヌを押していく）
**ロクサーヌ**　えー、やだー！　つまんない！

ロクサーヌ、舞台の端のほうに後ろ向きに立たされる。
ボーイズ（ラグノーふくむ）は舞台中央のクリスチャンのまわりに戻ってきて、
以下のシーンが始まる。
だが、ロクサーヌもすきを見ては戻ってこようとするので、そのたびにル・ブレがもとの位置へ連れていく。

この間、クリスチャンは、できるだけ決めポーズを保っている。

**ラグノー**　（観客に向かって、弁士風に）何はさておき。

**ル・ブレ**　（やはり弁士風に）あわれシラノは恋しい人と、恋敵［こいがたき］との仲をとりもつ役を、うっかり引き受けてしまったのであります。

**シラノ**　（やはり弁士風に）ところがこのクリスチャンという男、顔はよくても頭がない。口を開けばあーとかうーとか、そんなことしかしゃべれない。

**クリスチャン**　しゃべれますよ。

**シラノ＆ル・ブレ＆ラグノー**　わっ、しゃべった。

**クリスチャン**　（カミカミで）しゃべれるにはしゃべれるんですけども、うまくしゃべれないんです。

**シラノ**　（観客に）ほらね。

**ル・ブレ**　（クリスチャンに）黙っていれば男前なのにね。

このへんでロクサーヌがもどってきて、うなずいているので、ル・ブレがめんどうをみる。

**クリスチャン**　よく、そう言われます。

**シラノ**　自分で言うかな。

**クリスチャン**　ダメなんです。自分でもよくわかっているのです、ご婦人の前へ出ると、ふるえてしまって。

**シラノ**　手紙にしたら？

**クリスチャン**　（首を振る）もっとダメです。ペンを取っても紙は真っ白。才気煥発のあの人に、きっと幻滅されてしまう……！

このへんでまたロクサーヌがもどってきてうなずいているので、ル・ブレがめんどうをみる。

**シラノ**　うん、されるわ絶対。まちがいない。

**クリスチャン**　ああ、シラノさん！　あなたのきらびやかな弁舌がうらやましい！

**シラノ**　おれはきみのきれいな顔がうらやましいよ。

**クリスチャン**　弁舌でしょう。

**シラノ**　顔でしょう。

**クリスチャン**　弁舌。

**シラノ**　顔。

**クリスチャン**　弁舌。

**シラノ**　顔。

**ラグノー**　あのね。

**シラノ＆クリスチャン**　何？

**ラグノー**　（シラノとクリスチャンの二人を交互に指しながら）足して、二で割ったら？

シラノとクリスチャン、ラグノーを見、それからお互いをつくづくと眺める。

ル・ブレとロクサーヌもふりかえる。

**シラノ＆クリスチャン**　（納得して）ああー。

ル・ブレとロクサーヌも納得する。

シラノとクリスチャン、肩を組む。

**シラノ**　おれたち二人で、物語の主人公になろう！

**クリスチャン**　なんですって？
**シラノ**　おれが毎日教えてやることを
くり返して言う勇気はあるか？
**クリスチャン**　と言うと？
**シラノ**　おれたち二人で、あの人を口説く。
きみの形を貸してくれ、おれの中身を貸してやる。どうだ？
**クリスチャン**　だけど……
**シラノ**　なんだ？
**クリスチャン**　このぼくに手紙なんて、書けるのか……
**シラノ**　安心したまえ。（ポケットから手紙をとり出し）もう書いてある。
**クリスチャン**　早っ？！

全員、華麗に踊る（できる範囲で）。
踊りながら、シラノとクリスチャンを残して、他は退場。

#04 「スペイン」（ピアノソロ）

## 第一幕第二場

**クリスチャン**　（観客に）こうしてシラノは、クリスチャンの恋の個人授業を始めました。
甘〜いささやきを毎日特訓、言わせる、書かせる。
**シラノ**　さ、稽古稽古、台詞台詞。行くよ。「わたしの心を……」
**クリスチャン**　（メモる）わたしの心を……
**シラノ**　「奪ったあなた……」
**クリスチャン**　（メモる）奪ったあなた……
**シラノ**　「かわりにください……」
**クリスチャン**　（メモる）かわりにください……
**シラノ**　「あなたの心を」、なんちて、うまいこと言うねえ、ワハハおれって天才。（クリスチャンがメモを取るのをやめて見つめているので）何？
**クリスチャン**　もういやです、シラノ。こんな芝居、借り物の演技。
**シラノ**　ほほう。
**クリスチャン**　ぼくだって、ぼくだって、ひとりでできるもん。
**シラノ**　へへえ。
**クリスチャン**　一度、やらせてください。自分の言葉でしゃべりたいんですよ！
**シラノ**　（肩をすくめ）自分のね！

音楽。
ロクサーヌの先導で、バルコニー（の正面の絵、キャスター付き）登場。
ラグノーが押している。

#05 セヴラック「ミミは侯爵婦人の扮装をする」中間部（長調）

**クリスチャン**　（動揺して）あの人だ！　ダメだ、シラノ、行かないで！
**シラノ**　が〜んばれっ。（物陰に隠れる）

ピアノの陰。

**ロクサーヌ**　（クリスチャンに気づき）まあ、クリスチャンさま！（彼に近づく）
夕闇も迫り、人影もなく、いい気持ちね……。座りましょう。
お話を、どうぞ。うかがいますわ。
**クリスチャン**　（ロクサーヌのそばに座る。沈黙）愛してます。
**ロクサーヌ**　（目を閉じて）そう、話して、恋のこと。
**クリスチャン**　愛してます。
**ロクサーヌ**　それはテーマ。
言葉に綾を。
**クリスチャン**　あなたを……
**ロクサーヌ**　はいはい。
**クリスチャン**　ものすごく、愛してます。
**ロクサーヌ**　で？
**クリスチャン**　ですから……
**ロクサーヌ**　ちゃっちゃと言いなはれ。
**クリスチャン**　あー……うー……
**ロクサーヌ**　とろくさ。（立って帰ろうとする）
**クリスチャン**　あの！
**ロクサーヌ**　（ふり向いて）なんですの？
**クリスチャン**　ちゅー、しませんか？
**ロクサーヌ**　はい？
**クリスチャン**　ちゅー。

クリスチャン、唇をつき出す。ロクサーヌ、彼にハリセンを見舞う。

**ロクサーヌ**　おやすみなさい。

ロクサーヌ、家の中へ（バルコニーの絵の後ろへ）。シラノ、物陰から出てくる。

**クリスチャン**　（泣く）どうしようシラノ。嫌われちゃった。
**シラノ**　知〜らない。シラノ知〜らない。
**クリスチャン**　今すぐ仲なおりできないなら、ぼくは死んでしまう。
**シラノ**　自分の言葉でしゃべればぁ？
**クリスチャン**　いじわる。（泣く）
**シラノ**　ああわかったよ、わかったから泣くな。

バルコニーの窓に明かりがともる。

**ロクサーヌ**　ぱああ。（明かりがともった音）
**シラノ**　（心動いて）おっと、あの人の窓に明かりが！
**クリスチャン**　（泣く）ぼく死んじゃう！

**シラノ**　　声がデカい！
**クリスチャン**　（小声で）死んじゃう……
**シラノ**　　幸いの闇夜。
**クリスチャン**　　だったら？
**シラノ**　　取り返しはつく。
あそこへ行け、スットコドッコイのオタンチン・パレオロガス！
そうだよ、バルコニーの下だ。おれは隠れて、
台詞を付けてやるから。
**クリスチャン**　　だって……
**シラノ**　　いいからあの人を呼べ。
**クリスチャン**　ロクサーヌ！

ロクサーヌ、窓から顔を出す。

**ロクサーヌ**　どなた？
**クリスチャン**　　ぼくです。
**ロクサーヌ**　　（わざと）ぼくって？
**クリスチャン**　　ぼくです。
**シラノ**　（小声で）それじゃボクボク詐欺だろう。
**クリスチャン**　クリスチャンです。お話があるのです。
**ロクサーヌ**　まにあってます。（窓を閉めかける）
**クリスチャン**　ああ待ってください！　えーと……（シラノをふり返る）
**シラノ**　（小声で）ひたぶるに。
**クリスチャン**　ひたぶるに。
**シラノ**　（小声で）御身［おんみ］のもとへと心は叫び。
**クリスチャン**　御身［おんみ］のもとへと心は叫び。
**シラノ**　（小声で）岩打つ波のおのれのみ。
**クリスチャン**　岩打つ波のおのれのみ。
**シラノ**　（小声で、節をつけて）砕けて～ものを～思う～頃かな～。
**クリスチャン**　砕けて～ものを～思う～頃かな～。
**ロクサーヌ**　（うっとりと窓を開けていきながら）そう、そう、こうでなくちゃ。素敵ですわ、クリスチャンさま。ちょっとお正月のカルタみたいだけど。
**シラノ＆クリスチャン**　（こっそりグッジョブサインを出しあう）
**ロクサーヌ**　でも、どうしてそう、とぎれとぎれになりますの？
**シラノ**　（あわてて小声で）夜ですから……
**クリスチャン**　夜ですから……
**シラノ**　（小声で）言葉も闇夜を手さぐりに。
**クリスチャン**　コトバもヤミヨをタテチトチュ？？
**シラノ**　（クリスチャンを一発殴って押しのけ、彼の声に似せて自分で語りはじめる）　人形振り。
夜ですから、

言葉も闇夜を手さぐりに、お耳のありかを求めます。
はい昇りゆくわたしの言葉、ひまがかかるのも理の当然。

**ロクサーヌ**　（にっこり）今ではもう、うまく昇ってまいりますわ、クリスチャンさま。

**シラノ**　その高みからこの心臓へ、つれない言葉を落とされたなら、
わたしは即死だ！

**ロクサーヌ**　（嬉しい）降りますわ、わたくし。

**シラノ**　（あわてて）　いけません！

**ロクサーヌ**　なぜ？

**シラノ**　どうかもうしばらく……
お互いに、顔を見せずに。

**ロクサーヌ**　お互いに、顔を見せずに？
そうおっしゃるお声までも、いつもとはちがうような。

**シラノ**　そうです、いつもとはちがいます、夜が守ってくれますゆえに、
誰はばかることもなく、ついにわたし自身になれるのです、わたし自身……
（はっと気づき）どこまでいった？
お許しください、つい……まことにわたしには、初めての！

**ロクサーヌ**　初めての？

**シラノ**　（さらにうろたえ）初めての……そうです……真実の言葉です。
（激しく）今夜ばかりは、紋切り型の鎧［よろい］は無しだ！

音楽始まる。

#06 フランク「前奏曲、フーガと変奏曲」より前奏曲

**シラノ**　言葉、言葉、言葉はすべて、
胸に浮かびしだい、あなたに投げる、
群がる言葉の数々を、まとめもやらずそのままに！　愛している、息が詰まる、
恋い焦がれているのです、われを忘れて、どうにもならない！
きみのことは何でも覚えている、すべてをわたしは愛してきた。
忘れもしない、去年五月の十二日、きみは
朝の散歩にと、髪の結い方を変えてみた。
きみの髪の毛の輝きは、あまりにも美しく、
太陽をじっと見つめると、その後どこにも
真紅の斑点が見えてしまうそれにも似て、
わたしを満たした火の輝きに、目はくらまされ、
何を見ても金髪のあざやかな染みがつきまとった！

**ロクサーヌ**　（声もふるえて）そうですわ、それが真［まこと］の恋……

**シラノ**　ああ、きみの幸福のためならば、わたしの幸福などさし上げる。
とはいえ、わたしの幸福など、きみにはわかりはしない、
ただ、時として、遠くから、きみの笑う声が聞こえればいい、
その幸福の笑い声は、わたしの犠牲の落とし子なのだ。
ああ、今夜という今夜の美しさ、美し過ぎる、甘美に過ぎる！

あなたはふるえていますね、風にそよぐ木の葉のように！
わたしは感じる、きみの手のおののきが、
ジャスミンの枝を伝ってここまで降りてきてくれる。（垂れ下がる枝にキスする）

**ロクサーヌ**　そうですわ、わたくしはふるえ、涙に濡れ、酔いしれて、
恋するあなたのものになる！

**シラノ**　ならば、死んでも本望だ！
今や願いはただ一つ……

音楽止まる。

**クリスチャン**　（バルコニーの下から）ちゅー、です。

**シラノ＆ロクサーヌ**　え？

**クリスチャン**　接吻を！

**シラノ＆ロクサーヌ**　えー？！

シラノとロクサーヌ、それぞれ呆然。

**シラノ**　（小声で）おい！

**クリスチャン**　（小声で）だって（ロクサーヌを指し）いますごくもりあがってる。

**シラノ**　そうだけど……

**クリスチャン**　チャンスじゃない！

**シラノ**　そんなおまえ、おいしいとこだけ……

**ロクサーヌ**　何をひそひそ？

**シラノ＆クリスチャン**　なんでもありません！

**シラノ**　（クリスチャンを一発殴ってから）わかったよ、わかったから行け。早く。

**クリスチャン**　ああシラノ、きみの友情に、どう感謝したらいいか！（と言いつつシラノを踏み台にしてよじ登る）

**ロクサーヌ**　クリスチャン！

**クリスチャン**　ロクサーヌ！

再び音楽。二人、接吻する――寸前に、　#06 フランク前奏曲

**ロクサーヌ＝女優１**　（手を挙げる）すいませーん。ちょっと止めていいですか。

音楽止む。
三人（シラノ→男優１、ロクサーヌ→女優１、クリスチャン→座長）、やれやれという疲れた感じで腰をおろす。
女優２もさりげなく出てきて、ひじょうに自然な感じでにこにことうなずいている。

**女優１**　このロクサーヌって人がよくわかりません。

**座長**　なんで。

**女優１**　だってふつう（座長と男優１を交互に指し）まちがえない。

**座長**　そうだけど。これはそういう新劇的アプローチを適応するべき芝居じゃないから。

**女優１**　それになんか、感じ悪い。クリスチャンがいっしょけんめい好きだって言ってるのにかわいそう。どうして口下手じゃダメなんですか？

**座長**　当時はね、恋愛遊戯っていうか、美辞麗句をもてあそぶのが流行［はや］ってたの。

**女優１**　そういうの良くないと思います。

**座長**　いや、良くないと思いますって言われても……

**女優１**　あとシラノもかわいそう。だいたい（シラノの付け鼻を指し）こんな鼻の人いません。

**男優１**　それはおれもそう思う。

**女優１**　（男優１に）でしょ？（座長に）ほら。

**男優１**　だけどこれ（付け鼻）、いいよ。楽しい。

**座長**　（男優１に）でしょ？（女優１に）ほら。

男優２、舞台の袖から顔を出す。

**男優２**　ねえ、まだ？

**座長・男優１・女優１・女優２**　まだ。

**座長**　あのさ、ちょっとあれ買って来てくれないかな、ほら、リポビタンＤとか。

**男優２**　（困って、レースの襟を引っぱり）この格好じゃ外に出られないよ。

**座長**　ああそうか。じゃ、百数えて待ってて。

**男優２**　（すなおに）わかった。

男優２、「いーち、にーい……」と数えながら引っ込む。

**女優１**　（女優２に）お風呂じゃないんだから。

**女優２**　（にこにこと、ひじょうに自然な感じで）ねえ。

**座長**　（気がついて）きみ、なんでここにいるの。

**女優２**　（無邪気に）え？

**座長**　（舞台裏を指して）きみもあっちで待ってるはずでしょう。

**女優２**　（ますます無邪気に）そうでしたっけ？

男優２、顔を出す。

**男優２**　きゅうじゅく（九十九）、ひゃーく！

**座長・男優１・女優１・女優２**　ぜったいウソ。

**男優２**　（女優１に）風呂、いいね。（男優１に）風呂行こうか。銭湯。

**女優１**　いまから？

**男優２**　だって出番なかなか来ないから。
**女優１**　お風呂入ってるあいだに出番来ちゃったらどうするの？
**男優２**　そん時は駆けつけるよ。
**男優１**　それ、いいね。（立ち上がる）
**女優２**　わたしも。（立ち上がる）
**女優１**　ずるーい！　あたしもそっち行く。（立ち上がる）

ピアニストも立ち上がる。

**男優１**　（座長に）じゃ、あとよろしく。

つまり、座長以外、全員「そっち」側に行った。

**座長**　ちょっと待って！
**男優１**　泣くなよ。
**座長**　泣いてないけど、どうするのこれ！
**男優１**　だって、言ってたじゃないか、おれが突然こう言い出すんだって、「惚れた腫れたは、もう飽きた」。
**座長**　（思い出して）そうか……だけど、だからって、風呂？
**男優１**　わかった。風呂はあとにする。
**男優２・女優１・女優２**　えー！
**男優１**　そのかわり、月に行く。
**座長・男優２・女優１・女優２**　はい？
**男優１**　風呂も月も、同じだ。
**女優１**　無理なくない？
**男優１＝シラノ**　おれ、シラノ・ド・ベルジュラックは実在した、これは事実だ。決闘した、戦争に行った、それも事実だ。だけどおれは、（女優１＝ロクサーヌに）ごめんね、ラブレターは書いてないんだ。おれが書いたのは、ＳＦだ。ということで、ちょっと風呂、じゃない、月に行ってくる。（座長に）悪いな、エドモン・ロスタン。
**座長＝ロスタン**　おれだけ置いていくのか？
**シラノ**　ついて来てもいいよ、ついて来られるなら。
**ロスタン**　言ったな。
**シラノ**　あんたが書いた台詞を言わされるのは、もう飽きた。そろそろ、自分の言葉でしゃべらせてくれ。
**ロスタン**　自分のね！
**シラノ**　文句ある？
**ロスタン**　登場人物はね、おとなしく、作者の書いた台詞を言ってればいいの。
**シラノ**　いやだね、まっぴらだ！
**ロスタン**　惚れた腫れたの、どこが悪い？
**シラノ**　ノー・サンキュー。

助手がコートを持って出てきて座長に着せる。

ピアニスト、このへんでピアノのところに戻る。

**ロスタン**　おれはあんたの人生を――
**シラノ**　ノン・メルシー！
**ロスタン**　華麗なロマンスの花束で飾ってあげたっていうのに。
**シラノ**　そんな花は犬に食わせろ、棺桶にでも詰めておけ！
あんたの話はね、小さいんだよ、小さい。おれはね、
惚れた腫れたの他に、やることがたくさんあったの。
**ロスタン**　何だよ。
**シラノ**　いろいろ。
**ロスタン**　だから何だよ。
**シラノ**　あれだよ。
**ロスタン**　あれか？
**シラノ**　「歌って、夢見て、
**シラノ＆ロスタン**　「笑って、死ぬ！」（二人、ハイタッチ）
**ロスタン**　「いつでもひとり――
**シラノ**　「いつでも、自由だ」。

音楽。

#07 「歌うしかない～月へ行こうよ」…ピアフ「恋はなんのために」前奏

**ロスタン**　（ピアニストに）ちょっと待って、ちょっと待って。

ピアニスト、弾くのをやめる。

**ロスタン**　歌わせようとしてない？
**シラノ**　してる。
**ロスタン**　これ、ミュージカルじゃないから。まじめな芝居だから。
**シラノ**　いつから？
**ロクサーヌ**　あたしも、ミュージカルはちょっと、（座長に）ねえ。
**シラノ**　平気平気、ミュージカルとはぜんぜんちがうから。芝居の途中にときどき歌が入るだけだから。
**ロクサーヌ**　だからそれがミュージカルじゃない！　あのね、こういうふうにしゃべってて、いきなり「アー」って歌いだすのって、どう考えても不自然でしょ？　見ててすごくはずかしいの。
**ラグノー**　ですよねー。
**ロスタン**　そうそう、はずかしいよ！　外人さんならともかく、日本人が日本語でやると、なんて言うか、あの「字余り感」が。
**ラグノー**　ですよねー。
**シラノ**　でもここピアノあるし、ピアニストさんもいるし、やっぱり、もう、歌うしかないでしょう。
**ラグノー**　ですよねー！
**ロクサーヌ**　（ラグノーに）どっち。

**ル・ブレ**　おれは歌ってもいいよ。

**シラノ**　（ル・ブレに）でしょ？（ロクサーヌとロスタンに）ほら。だいたい、さっきあなたたち思いっきり踊ってたじゃない。

踊ってたのはクリスチャンだけどね。

**ロクサーヌ**　（困って）あれはなんて言うか、ノリで。（ロスタンもうなずく）

**シラノ**　だから大丈夫、歌も行ける。ノリで。

**ロクサーヌ＆ロスタン**　えー？

**シラノ**　行ける。

**ロクサーヌ＆ロスタン**　無理。

**シラノ＆ル・ブレ＆ラグノー**　行ける！

**ロクサーヌ＆ロスタン**　無理！

音楽、ふたたび始まる。

#07 「歌うしかない」

**ロスタン**　ここで突然　歌いだすのは
とても不自然　おかしいじゃない

**シラノ**　だけど歌えば　心は晴れる
ここまで来たら　歌うしかない

**ロクサーヌ**　歌いたくない　あたしはもっと
まじめな芝居　したいんだから

**シラノ**　歌うのだって　芝居のうちよ
面白ければ　結果オーライ

**ラグノー**　歌って夢見て　笑ーって死ぬ
ちょいと字余り　しかたがないね

**全員**　ハナも嵐も　どんと来いだ
シラノの芝居　いま始まる

**全員（助手も舞台袖から顔を出して）**
月へ行こうよ　月から見れば
地球のわれら　たぶんこのくらい（指で示す）
月から見れば　気どってみても
カッコつけても　たぶんこのくらい（指で示す）

転換。

いったん全員退場。
助手がバルコニーを片づける。